

## ■ 効率やタイパを重視する20代、しかし半数以上が「タイパ疲れ」を実感

効率化やタイパ\*などが重視される現代社会。そんな環境の下、20代の若い世代はどう感じているのか？全国の20代男女10,000人を対象に、日常生活の価値観に関する調査を行いました。

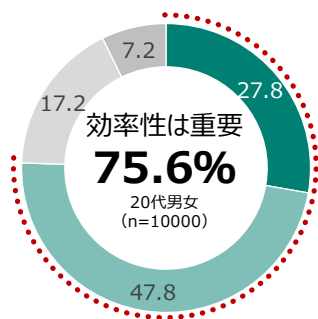
まず、何事にも効率性は重要だと思うかと聞くと、27.8%が「そう思う」、47.8%が「ややそう思う」と答え、合計で75.6%は効率性が重要だと思うと答えています。また、最近耳にするタイパについてもほぼ同じレベルの74.3%（「そう思う」27.2% + 「ややそう思う」47.1%）が重要だと思っています。一方で、タイパ疲れを感じるかと聞くと、半数を超える56.1%（「そう思う」19.0% + 「ややそう思う」37.1%）がタイパ疲れを感じるかと答えています [図1]。タイパは重要と認識しつつも、タイパ疲れも感じているようです。

\*タイパ：「タイムパフォーマンス」の略。短時間で最大の利益（効果）を得ることに着目した概念

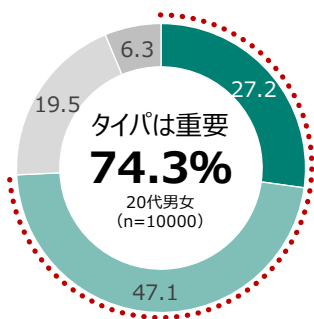
【図1】 効率やタイパに対する20代の意識

Q.生活価値観について、あてはまるものをひとつ選んでください。

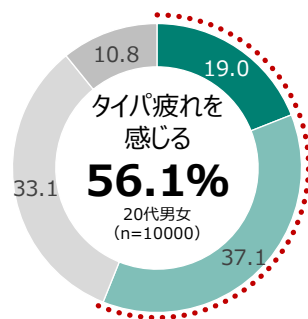
### ①何事にも効率性は重要だと思う



### ②タイパは重要だと思う



### ③タイパ疲れを感じる



■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

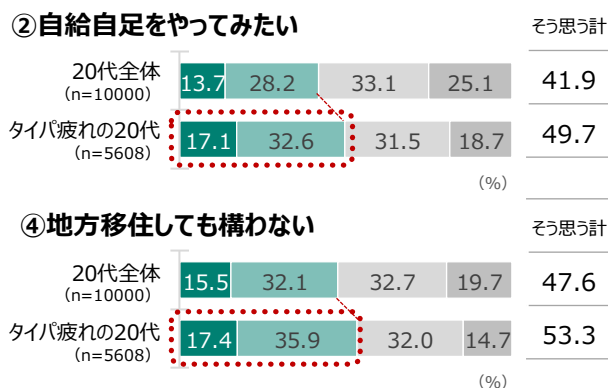
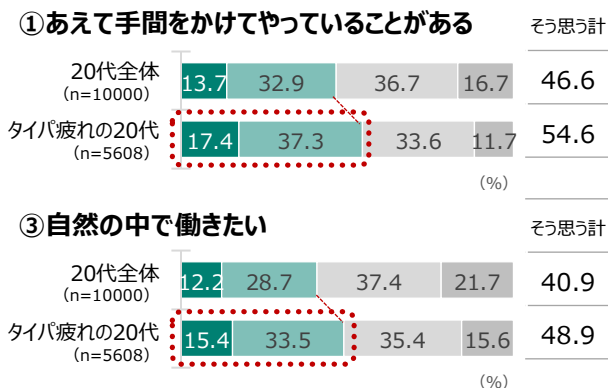
## ■ タイパ疲れを感じる20代、「手間」「自給自足」「自然」「地方移住」への意向が強い

次に生活価値観について聞き、20代全体とタイパ疲れを感じる20代（図1③の該当者5,608人）を比較してみました。

生活の中であえて手間をかけてやっていることがある（そう思う計）は、全体46.6%に対し、タイパ疲れの20代は54.6%と手間をかけることをしている人の割合が高くなっています。自給自足をやってみたいのは、全体41.9%に対し、タイパ疲れの20代は49.7%と自給自足への意向割合も高くなっています。また、自然の中で働きたい（全体40.9%：タイパ疲れの20代48.9%）や、地方移住しても構わない（全体47.6%：タイパ疲れの20代53.3%）もタイパ疲れの20代の方が高くなっています [図2]。タイパ疲れを感じる20代は、あえて手間をかけて自分の手で生活し、自然の中で暮らしたいという意向が強くなっています。

【図2】 タイパと逆行する生活価値観に対する意識 20代全体：タイパ疲れの20代比較

Q.生活価値観について、あてはまるものをひとつ選んでください。



■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

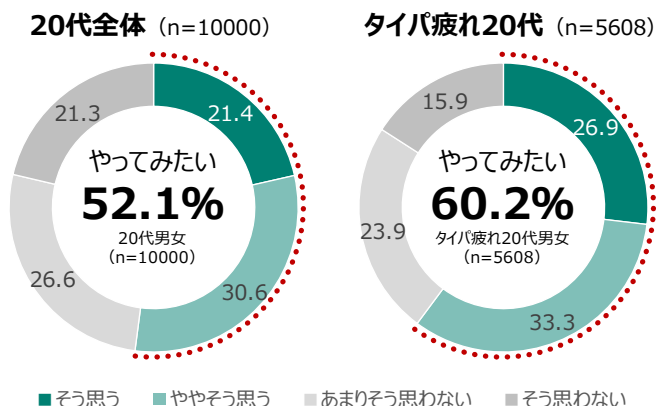
## ■ 20代の半数が「将来、農業をやってみたい」

20代男女10,000人に、将来、農業をやってみたいか聞きました。すると、21.4%が「そう思う」、30.6%が「ややそう思う」と答え、合計で52.1%\*と20代の約半数が、「将来農業をやってみたい」と答えています。タイパ疲れを感じる20代では60.2%と、将来農業をやってみたいと答えた人が多くなっています【図3】。

\*「専業で」、「副業・兼業で」、「形態は決めていないが、将来農業をやってみたい」のいずれかを回答した人の数値

【図3】 農業への関心度、将来の就農意欲

Q.将来、農業をやってみたいですか？



## 調査結果②

## 将来農業をやってみたい20代男女700人の農業に対する意識や実態

ここからは、「将来農業をやってみたい」と回答した20代男女700人（大学生200人、ビジネスパーソン\*500人）に、農業に対する意識や実態について詳しく聞きました。

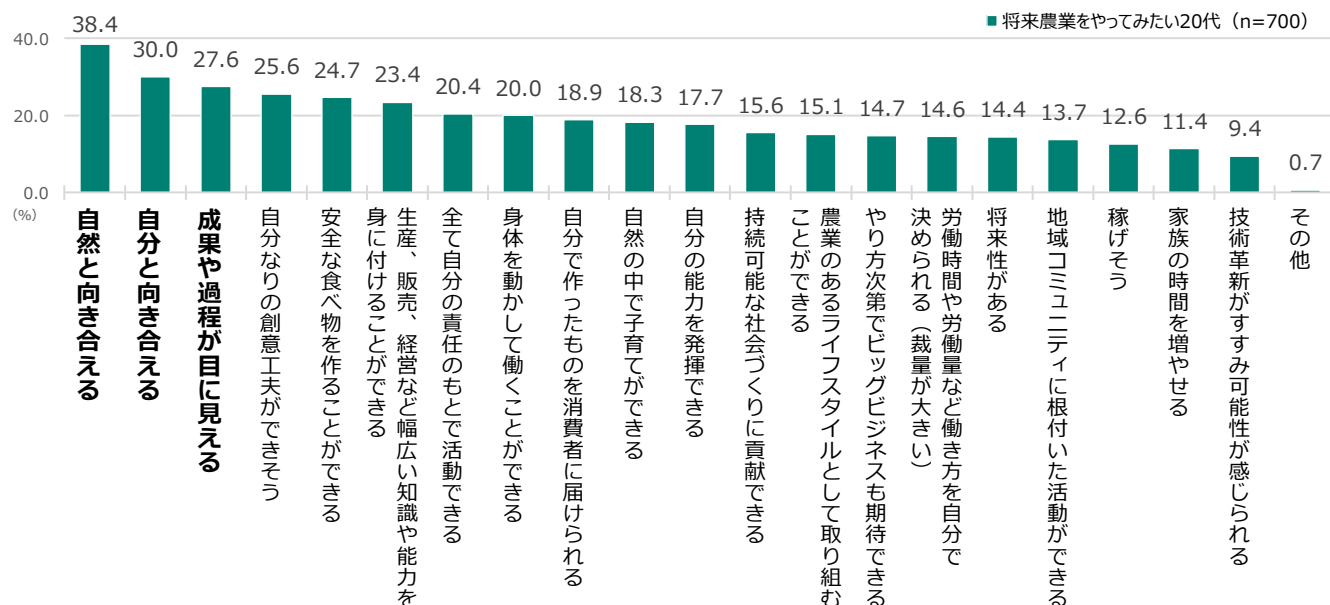
\*ビジネスパーソン：公務員・会社員・会社役員など組織で働く人

## ■ 農業は自然や自分に向き合える、全てのプロセスに関与できる仕事

将来農業をやってみたい20代に農業の魅力を知りました。すると、「自然と向き合える」（38.4%）、「自分と向き合える」（30.0%）、「成果や過程が目に見える」（27.6%）が上位に挙げられました【図4】。農業をやってみたい20代は、農業が、自然と向き合い、自分自身とも向き合うことができる、結果だけでなくプロセスに深く関わり、自分の手で創意工夫していく仕事であることに魅力を感じているようです。

【図4】 農業をやってみたい20代が考える農業の魅力

Q.農業の魅力は？（複数回答）



■ 農業に従事する際に必要な力は、「体力」「忍耐力」「計画力」「判断力」「観察力」

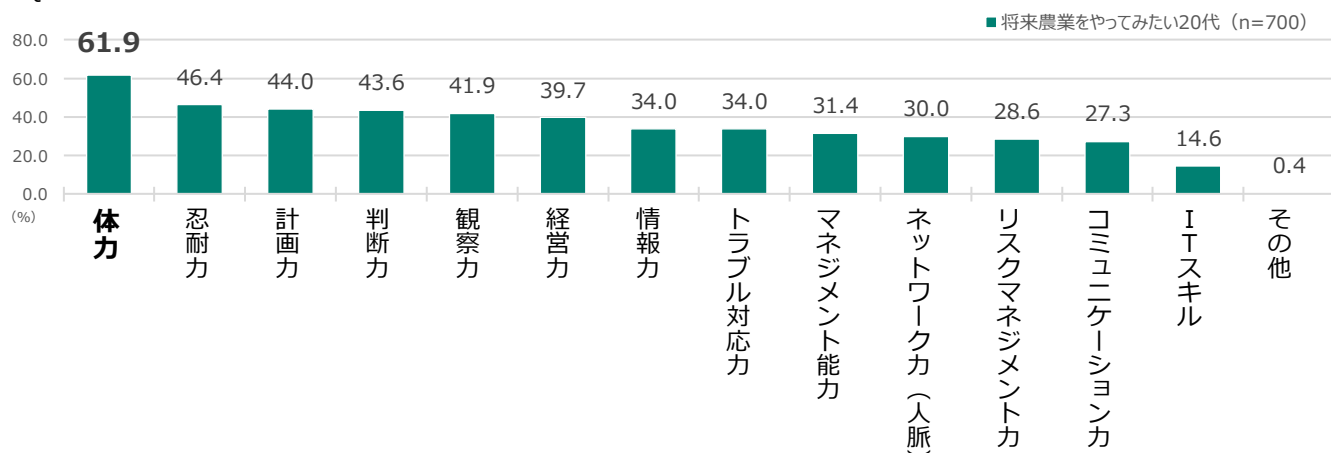
■ 現在足りていない力は、「体力」「経営力」「判断力」「計画力」「トラブル対応力」

農業をやりたい20代に、農業に従事する際に必要だと思う力を聞きました。すると、「体力」(61.9%)が最も高く、次いで「忍耐力」(46.4%)、「計画力」(44.0%)、「判断力」(43.6%)、「観察力」(41.9%)が上位に挙げられました。さらに、「情報力」「トラブル対応力」(同率34.0%)、「マネジメント能力」(31.4%)や「リスクマネジメント力」(28.6%)など、現代社会に不可欠なビジネススキルも就農には欠かせない力と考えられています [図5-1]。

また、その中で現在の自分に足りていない力を聞くと、「体力」(33.4%)がトップで、次いで「経営力」(29.6%)、「判断力」(24.1%)、「計画力」(23.7%)、「トラブル対応力」(21.9%)、「忍耐力」(21.7%)が上位となっています [図5-2]。就農するには、まずは「体力」が肝心ですが、自然と向き合うための「忍耐力」や経営者としての「経営力」や「マネジメント能力」も重要と考えられているようです。

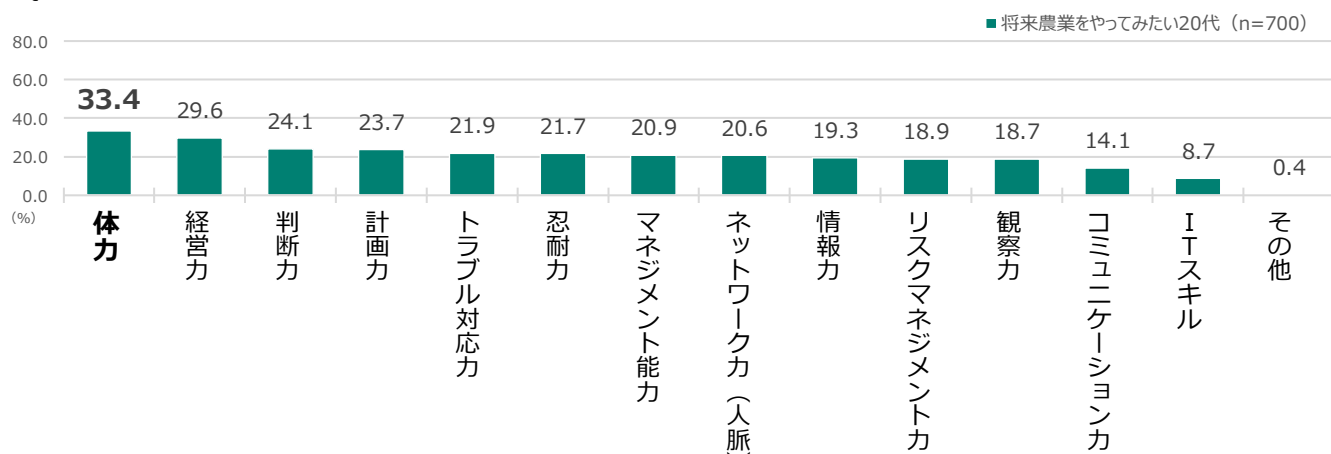
【図5-1】 就農するのに必要なチカラ

Q.農業に従事する際に必要だと思う力は？(複数回答)



【図5-2】 就農するのに現在足りないチカラ

Q.農業に従事する際、現在足りていない力は？(複数回答)



## ■ 就農を考える大学生の農業への道のり

農業をやってみたい20代のうち、大学生200人に就農への道のりについて聞きました。

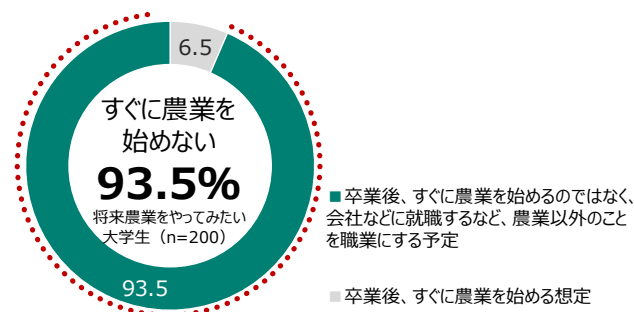
まず、卒業後の進路を聞くと、「卒業後、すぐに農業を始める想定」と答えたのは6.5%で、ほとんどの大学生が「卒業後、すぐに農業を始めるのではなく、会社などに就職するなど、農業以外のことを職業にする予定」（93.5%）と答えています

〔図6〕。将来農業をやってみたい意向があるものの、卒業後すぐに農業を始める“直農”志向の人は少ないようです。

とはいえ、彼らの7割近くが「将来就きたい職業を見据えて、ファーストキャリア・セカンドキャリアを選んでいる」（67.5%）と答えているため、就農を見据えたキャリア選択をする人が多いと考えられます〔図7〕。

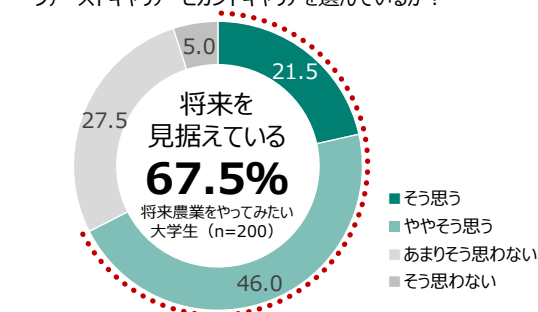
〔図6〕 卒業後の進路

Q.卒業後の進路は？



〔図7〕 将来のキャリア設計

Q.将来就きたい職業を見据えて、ファーストキャリア・セカンドキャリアを選んでいるか？

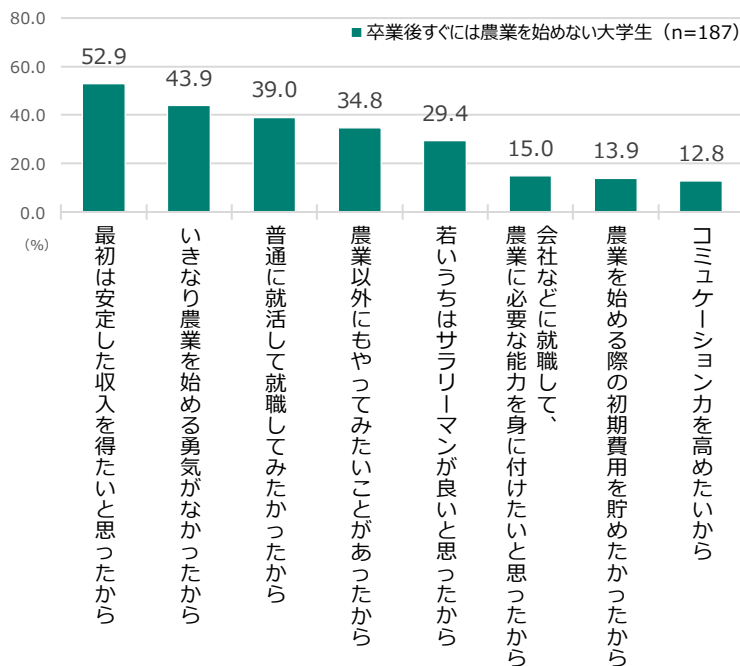


そこで、「すぐに農業を始めない」と答えた187人に理由を聞くと、「最初は安定した収入を得たいと思ったから」（52.9%）が多く、「いきなり農業を始める勇気がなかったから」（43.9%）、「普通に就活して就職してみたかったから」（39.0%）、「農業以外にもやってみみたいことがあったから」（34.8%）などがその理由として挙げられました〔図8〕。

将来農業をしたいと考えている大学生は、まずは社会人としての経験を積み、その上で、ネクスト・キャリアとして就農を考えるケースが多いようです。

〔図8〕 最初の就職先として農業を選択しない理由

Q.初めのキャリアとして「農業」を選択しない理由は？（複数回答）



※回答スコアが10%以上のものを表示

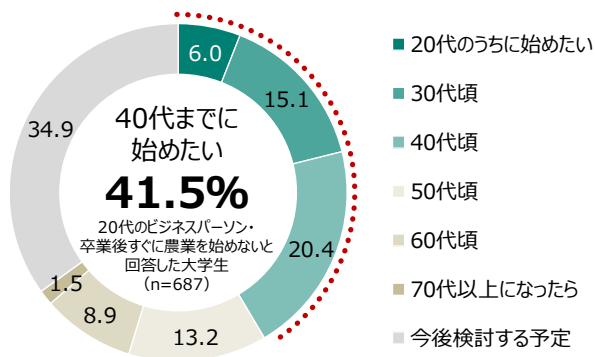
## ■ リタイア後ではなく、「40代までに」農業を始めたい人が4割

農業をやってみたい20代のうち、卒業後「すぐに農業を始めない」と回答した大学生187人と、農業以外の職業で働くビジネスパーソン500人の計687人に、何歳ぐらいで農業を始めたいか聞いてみました。すると、「40代頃」と答えた人が20.4%と多く、40代までに始めたい人が合計で41.5%と約4割を占めています【図9】。

社会人生活をリタイアしてからではなく、比較的若いうちから農業を始めたいと考える人が多いようです。

【図9】 農業を始めたい年代

Q.今後、いつ頃農業を始めたいか？



## ■ 将来やってみたい農業は、人や社会とつながる持続可能な半農半X型

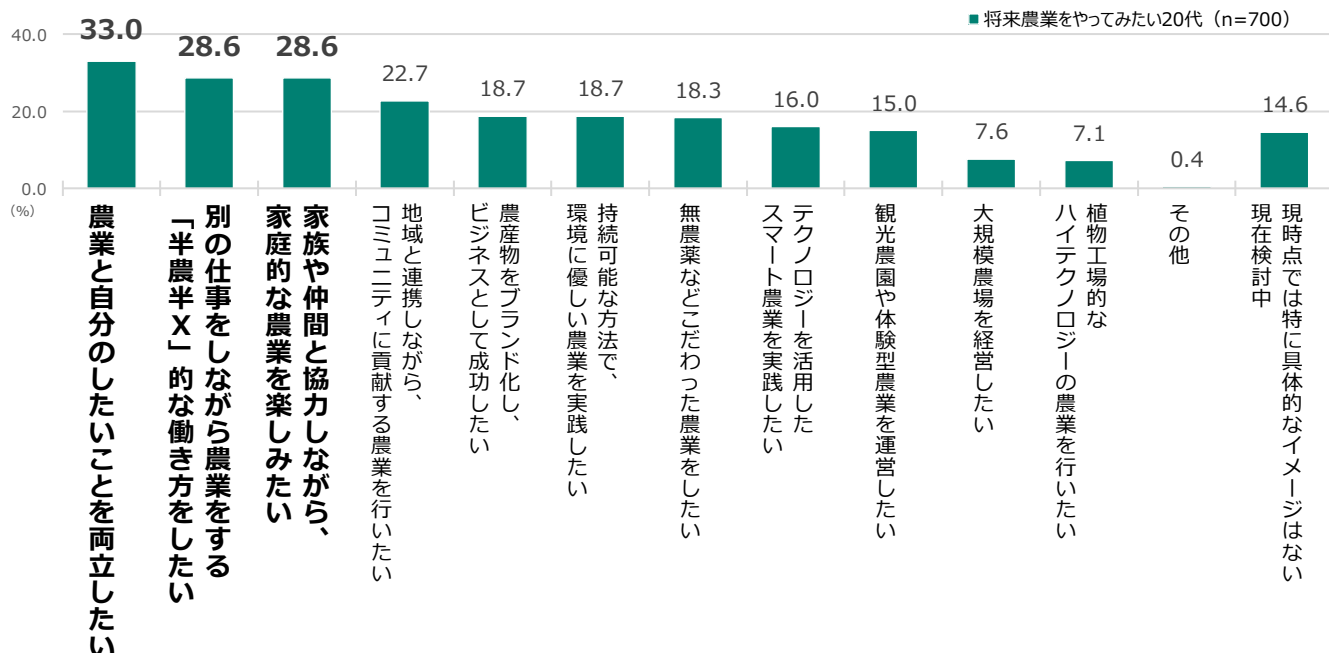
農業をやってみたい20代全員に、将来目指したい農業ライフについて聞いてみました。すると、「農業と自分のしたいことを両立したい」(33.0%)、「別の仕事をしながら農業をする半農半X\*的な働き方をしたい」「家族や仲間と協力しながら、家庭的な農業を楽しみたい」(ともに28.6%)、「地域と連携しながら、コミュニティに貢献する農業を行いたい」(22.7%)といった意見が多く挙げられました【図10】。

効率や生産性よりも、社会や人とのつながりを重視する持続可能なスタイルで、専業農家ではなく自分がしたいことと「複業」する農業が理想と考える20代が多いようです。

\*半農半X：農業と、他の仕事や自分の好きなこと（「x」）を両立させた働き方・ライフスタイルのこと

【図10】 目指したい農業スタイル

Q.将来目指したい農業や農業ライフとは？（複数回答）



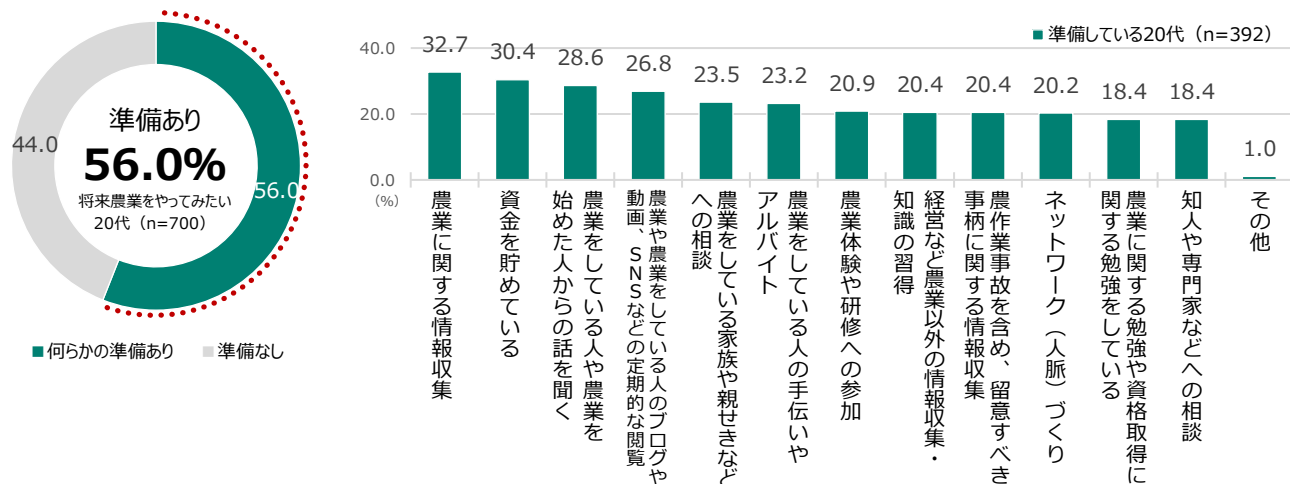


## ■ 将来農業を始めるために、農業志向の20代の5割以上が準備を始めている

将来、農業を始めることに備え準備として行っていることがあるかを聞くと、全体の約半数（56.0%）が何らかの準備を始めています。具体的には「農業に関する情報収集」（32.7%）や「資金を貯めている」（30.4%）、「農業をしている人や農業を始めた人からの話を聞く」（28.6%）、「農業や農業をしている人のブログや動画、SNSなどの定期的な閲覧」（26.8%）などが挙げられました〔図11〕。まずは身近で取り組みやすいことから始めているようです。

〔図11〕 農業を始めるために準備していること

Q.今後、農業を始めることを考慮して、準備として行っていることは？（複数回答）



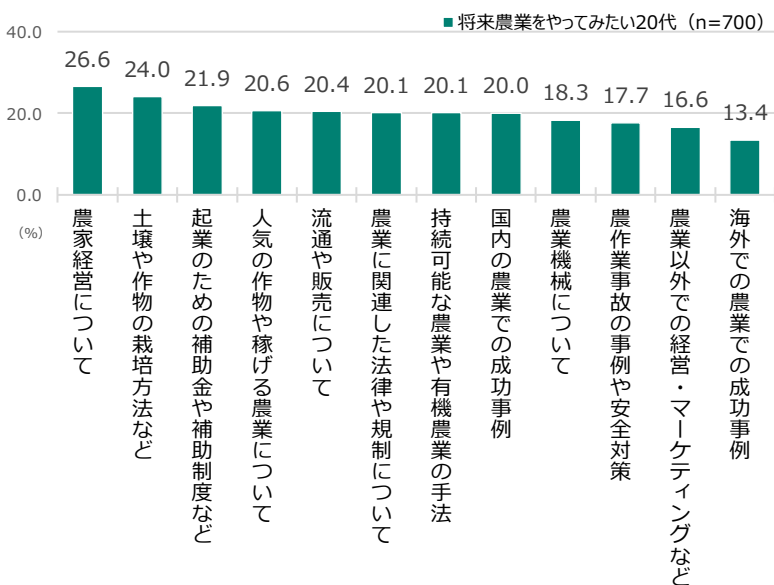
## ■ 農業をやってみたい20代の8割が農作業事故防止プログラムを「体験したい」

また、今後農業について学びたいことを聞くと、「農家経営について」（26.6%）、「土壌や作物の栽培方法など」（24.0%）、「起業のための補助金や補助制度など」（21.9%）が上位に挙げられました〔図12〕。

「農作業事故の事例や安全対策」について学びたいと答えた人は、17.7%とおよそ6人に1人ですが、農作業でのケガや事故を防ぐプログラムを体験したいかと具体的に聞くと、78.9%（「そう思う」25.0%+「ややそう思う」53.9%）と約8割が農作業事故防止プログラムを「体験したい」と答えています〔図13〕。

〔図12〕 農業について今後学びたいこと

Q.農業を開始することを考え、今後、学びたいことは？（複数回答）



〔図13〕 農作業事故防止プログラムの体験意向

Q.農作業でのケガや事故を防ぐプログラムを体験したいか？

